

## 植物と人々の博物館メールマガジン

第 90 号 2022 年 8 月 1 日発行

2023 年は国際雑穀年



暑中お見舞い申し上げます。フヨウが咲いています。バジルやオクラも収穫できるようになりました。バジルではジェノベーゼ・ソースを作ります。自宅の縄文ベランダでも雑穀や豆の種継はできそうです（写真）。

素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ友の会会員になってくださり、一緒に植物をめぐる生物文化多様性、在来品種の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。

### 1. 植物と人々の博物館

友の会会員になってくださるとうれしいです。

#### ○報告

インド大使館のご協力仲介で、西川文庫（インド関係書籍約 1200 冊）を港区か千代田区の図書館に移管する方向で検討を進めています。

#### ○予定

1) 開館・作業予定日：8 月中に 1～2 日は開館します。

2) 民族植物学ノート第 16 号の原稿は 12 月を締め切りにして募集します。ご寄稿ください。森とむらの図書室、日本村塾、農学校などの小史を記録します。編集子は大国主命と八上比売の長子、木俣の神の末裔として、信仰論を寄稿する予定です。その後の冒険学校、ちえのわ農学校、日本村塾の小史も記録してほしいです。

第 15 号までのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。 <http://www.ppmusee.org/goods.html>

#### 3) 電子書籍：

一部公開中の雑穀の民族学関係の書籍、選集 III『日本雑穀のむら』は年内完結を目指して加筆修正していますが、「補論 3. 日本の先史時代における農耕」を公開しました。選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』を未定稿公開しました。選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』の読み書きを進めて、順次公開します。これら 4 冊のまとめとして選集 V “Essentials of Ethnobotany” の一部公開を進めます。クリンネス（木俣美樹男 2022）は偶数月に植物の香りを話題に連載継続します。

#### 4) 森とむらの図書室への寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」「環境と文明」、『野良の芸術—農が都市をささえている』、ありがとうございます。

#### 5) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、クラウド・ファンディングや助成・補助よりも、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金を以前から考えていました。植物

と人々の博物館の維持のために会員になってくださるか、ご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしく申し上げます。未知の方を含めて、10 余人の方からご寄付を頂いています。ありがとうございます。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。費目指定でご寄付をいただくとありがたいです。郵便振込口座は下記です。

講座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

## 2. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

セミナーの動画や予習・復習資料 pdf および 2022 年の予定など、ご案内は下記のサイトにあります。 <http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

多くの世代が信頼の下に、ともに話し合い、深く考えて環境問題の解決を広く探りたいです。人々との間に信頼を築きたいです。セミナー座談会への参加希望やご質問などは下記にメールください。参加申込みをしてくださった方には当日の要綱、交通案内、zoom の URL などをメールでお伝えします。

共通申込み連絡先：[kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp) 木俣美樹男（企画室事務担当）

### ○予定

#### 第 6 回自給農耕ゼミ（小金井）

日時：秋に延期します。

話題：屋敷林、都市農地の巡検 案内者：小谷俊哉さん（グリーン・ネックレス）

内容：梶野町周辺の屋敷林や農地の巡検。

コースイメージ：東小金井駅→梶野公園→スタジオジブリと周辺のジブリが取得したオープンスペース→瀧島さんの屋敷林と農地と賃貸アパートの見事な花壇→築樋→気に広がる武蔵野市の桜堤団地と新しい広場空間→東小金井駅。

#### 第 9 回自給農耕ゼミ（佐野川）

日時：8 月 6 日（土）午前～15：30

場所：相模原市緑区上岩、宮本茶園の雑穀畑

実習：防鳥網の設置

実技指導：宮本透さん

#### 第 8 回環境楽習会

○ 日時：8 月 28 日（日）10：30～12：00

○ 場所：オンラインのみ（ZOOM：100 名）

○ プログラム：市民大学の試み

○ 話題提供者：深澤まどかさん（シブヤ大学）

シブヤ大学は無料で、学べる学びの場で、ボランティアスタッフが主体となって運営しています。目指すビジョンと具体的な活動から、市民大学の重要な役割と可能性を学びます。

## 第7回自給農耕ゼミ（小金井）

日時：9月25日（日）14：00～16：00

場所：小金井市中町カエルハウスおよびオンライン（zoom）（定員：会場15名、オンライン20名）

プログラム：心の基盤を創る自然体験、生活体験について話し合いたいと思います。

話題：冒険遊び、野良遊び、プレーパーク

話者：邦永洋子さん（NPO法人こがねい子ども遊パーク）

要旨：武蔵野公園のプレーパーク、南学童農園、小金井環境市民会議環境学習部会のたんぼの時間、東京学芸大学のちえのお農学校、プレーパーク、自然文化誌研究会の冒険学校などをつなげ、人々と経験を交流します。

申込み連絡先：042-316-1511（カエルハウス運営委員会）または  
[office@katayamakaoru.net](mailto:office@katayamakaoru.net) 資料代300円

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全NP04団体と3個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インター・ネット上で運営することです。ヨーロッパの12世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。

今この時、人新世の変曲点で、人生における学ぶ意味について改めて考え直し、再びルネサンス生き物の文明を日本から起こしたいです。この市民大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の参加（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。最近の録画、話題資料メモは上記サイトにあります。

### 3. 雑穀街道普及会：

この活動は、中川さんや編集子のような縄文人の子孫の最後の抵抗で雑穀栽培を伝承してきました。日本列島の農耕の歴史の伝統的知識体系の蓄積を絶やさないように、もう時が迫っているので、切にご助力をお願いしたいです。

#### ○報告

##### 1) 自給農耕ゼミ（佐野川）：

佐野川の宮本さんの畑1.4aにアワ、キビ、モロコシのほか、シコクビエ、ヒエ、ハトムギ、センニンコク、陸稲は良く生育しています。その後、宮本さんが追い播きをしました。キビは開花しはじめました。小金井のプランタでも在来品種の種子継ぎしています（写真縄文ベランダ）。

これから、雑穀・麦や茶もいろいろな作業が続きます。栽培・加工・調理法などを学びたい方はご連絡くださり、ご参加ください。時期に応じてお誘いします。

簡単な栽培方法は次のサイトにも公開してあります。ご質問にはいつでもお答えします。  
<http://www.milletimplic.net/weedlife/farmsklec8p.pdf>

## 2) 上野原市農村地域づくり担当への趣旨説明

①石井担当リーダーに改めて雑穀街道の趣旨説明をしまし、次の対応でした。た。担当を4月に代わったばかりで、前任からの引継ぎは受けていない。市民からの要望がなければ、対応はできない。検討はしてみる。パンフレットは置いておく。旧西原小学校の件は担当ではない。

②ワノサト関連で陪席し、関戸生活環境課長には、雑穀街道について若干の説明をした。好意的によく聞いていただけた。

3) チーム五右エ門の白水さんに雑穀街道の活動の現況を説明した。藤野ではローカル・シード・バンクのこと等誤解されているので、農閑期になったら、再度、メンバーに説明し、理解をしていただく機会をもつように勧められた。

## ○予定

1) 東京学芸大学創基150年記念の**雑穀発泡酒クラフトのプロジェクト**をご相談いただきました。自給農耕ゼミと一緒に、宮本さんの畑で栽培したキビとホップで藤野の醸造所に委託して醸す予定です。見積もりをいただいたので、学大創基と国際雑穀年記念発泡酒として、ご寄付をお願いします。

2) 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、45年間、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果(1974~2017)をまとめてあります。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/milletn/jnpmilvil.html>

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければうれしいです。趣意書や会則など、さらに「街道美味」は雑穀製品、佐野川茶やクラフト・ビールを紹介していますので、下記のホームページをご覧ください。会費や寄附は任意で、個人の意思を尊重し、あえて納入規定は設けていません。趣旨の賛同していただき、会員になっていただくようお願いしています。

遠くアフリカ、インドなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降数千年、この島嶼に住む人々の命の糧であった数種の雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培はいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財、雑穀や野菜の在来品種は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統的知識も継承されません。全国各地の伝統的雑穀栽培を継承する最後の篤農が90歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として、今を限りに絶滅させないように継承すべきです。雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。2023年は国際雑穀年になります。どうぞご助

力いただけますようお願いいたします。

#### 4. 自然文化誌研究会

こすげ冒険学校は8月5日～11日の6泊7日で開催に向けて準備しています。参加者15名、スタッフは常時20名は確保できています。本年の主な活動予定は下記ウェブサイトにあります。まふゆのキャンプ、INCHまつりライブは開催予定でいます。タイは未定です。

#### 5. 桂川・相模川流域協議会市民部会

幹事会議事録(6月16日)を頂きました。協賛団体が保留となった理由は下記です。

##### ①「雑穀街道」への取組について

・日向幹事から流域協議会が「雑穀街道協議会」(準備会)の協賛団体となることについて提案があり、幹事会にオブザーバーとして参加した、雑穀街道普及会 事務 幹事(木俣氏)から経緯等について説明があった。

・説明後、質疑を行ったが、現時点では協賛の可否について判断できないため、引き続き検討していくこととなった。

【提案概要】・雑穀の栽培が受け継がれている上野原市西原地区などを「雑穀街道」として、国連の世界農業遺産への登録を目指し、普及啓発活動を実施。

・2024年頃に国連への登録申請を目指しており、2022年中に申請の母体となる団体(雑穀街道協議会)を創立予定。

・現在、団体創立のための準備会の設置を予定しており、雑穀街道の取組に賛同する団体や個人での構成を考えている。

・ついては、流域協議会に準備会の賛同団体となってほしい。

【質疑等】・取組は農政分野であり、流域協議会の基本理念とマッチするか疑問。

・申請までのロードマップと現在の状況をもっと明確に知りたい。

・そのうえで、誰が、いつ、何をするのか、流域協議会が関わるタイミングや具体的な役割は何か、などを明らかにしてほしい。

【今後の対応】・幹事会で出された疑問点等の整理等したうえで、流域協議会としての関わり方を検討していくこととなった。

#### 6. ワノサト企画室

7月22日に、上野原市役所に、生活環境課長を訪ねました。7月29日にミーティングをしました。8月6日～7日に雑穀街道を巡検します。エコヴィレッジの考えは、エコミュージアム日本村の実践と親和性が高いと思います。

#### 7. お米の勉強会 雑穀の見学会

日時：8月27日、集合13時

場所：ぼうさいの丘公園東側駐車場

講師：玉木陸斗さん、東京農業大学院生、雑穀街道普及会幹事

申込先：中井美知子さん [okome.benkyokai@gmail.com](mailto:okome.benkyokai@gmail.com)



これらの雑穀保存系統（約 700）の大半は編集子のキビ研究用系統で、退職時 2014 年にトランジション・タウン藤野のお百姓くらぶに移管して、ローカル・シード・バンクとしていたものです。その後、担当者の末村成生さんが急逝される（2021 年）などして藤野では維持ができなくなり、玉木さんに移管することになりました。ちなみに、編集子が保存していた約 1 万系統オリジナルは東日本大震災時 2011 年に、計画停電と放射性物質汚染を避けるために、急遽、イギリスの王立キュー植物園のミレニアム・シード・バンクに移管してあります。なお、さく葉標本はすべて植物と人々の博物館にあります。

#### 8. 鳴子温泉郷のくらしとこれからの考える会：<https://ge-naruko.net/>

金子さんから、宮城県大崎市鳴子温泉郷にある、東北大学院農学研究科・川渡フィールドセンター、通称『六角牧場』における巨大な風力発電事業の計画について、お知らせを受けました（添付 pdf）。太陽光や風力などの再生エネルギーにも、多くの課題があることを現場から報告しています。

#### 9. OK シードプロジェクト学習会 「雑穀街道」を FAO 世界農業遺産に！ 山村の小規模農耕における生物文化多様性を保全する

日時：9 月 22 日（木） 20：00～21：30

開催：オンライン（申し込みが必要です）

講師：木俣美樹男（東京学芸大学名誉教授、農学博士）

学習会参加お申し込み：<https://okseed.jp/eventapply/>

#### 10. 雑穀サミットにし阿波

雑穀の理解を深めて世界農業遺産認定地域の持続ある未来を考える。

開催日：8 月 29 日月～30 日 案内 pdf 添付

開催場所：東祖谷歴史民俗資料館

申し込み案内先：雑穀サミットトラベルセンター(美馬市観光有限会社)

〒771-2106 徳島県美馬市美馬町寺ノ下 2 番地 2

〈営業時間〉 平日 9:00～17:00 〈定休日〉 土・日・祝

TEL.0883-63-2066 / FAX.0883-63-3338

E-mail:m.mtour.2066@sepia.plala.or.jp

~~~~~

**植物と人々の博物館**（山梨県小菅村）：館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（千葉）、伊能まゆ（ヴェトナム）ほか

公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

**雑穀街道普及会** <http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

栽培担当幹事：宮本透

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

[エコミュージアム日本村](#) / [ミュージーズ研究会](#) / [トランジション小菅](#) (山梨県小菅村) :

代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

[自然文化誌研究会](#) : 代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長：黒澤友彦 (山梨県小菅村) [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

[環境学習市民連合大学](http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html) <http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

企画室事務担当：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

~~~~~

写真 縄文ベランダ

